

2018年度

県内景況・確報

◎概況

県内景況は、拡大している

●2018年度 おきぎん「カトレア」景況図●



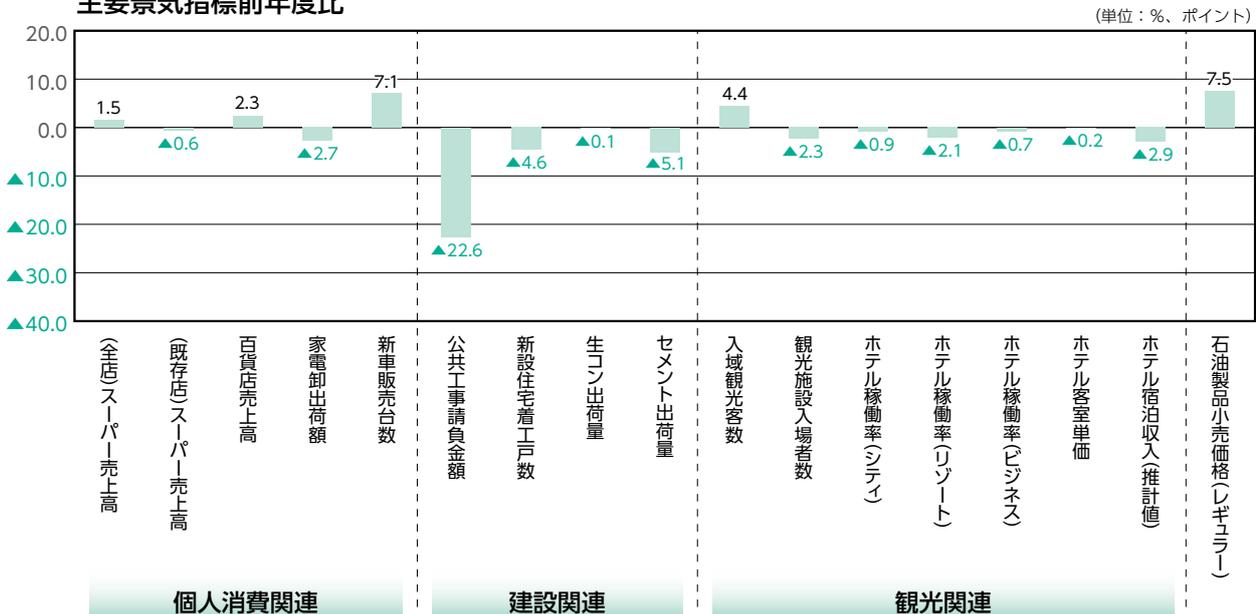
2018年度の県内景況は、**個人消費関連**では、スーパー売上高は、全店ベースは前年度を上回りました。既存店ベースは前年度を下回りました。百貨店売上高はインバウンド需要の増加などにより、前年度を上回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、エアコンや太陽光パネルなどの落ち込みにより前年度を下回りました。新車販売台数は、自家用車、レンタカー需要が増加し、前年度を上回りました。

建設関連では、公共工事請負金額は、国や沖縄県発注工事の減少などで前年度を下回りました。新設住宅着工戸数も前年度を下回り、建設資材である生コン、セメントもともに前年度を下回りました。

観光関連では、入域観光客数は7年連続で前年度を上回り（2018年度は過去最高を更新）、観光施設入場者数は8年ぶりに前年度を下回りました。ホテル稼働率は、シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年度を下回りました。ホテル客室単価は前年度を下回り、宿泊収入（推計値）も下回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費や建設関連が概ね堅調であり、観光関連でも好調な動きが継続していることなどから「**県内景況は拡大している**」と昨年度と同様に景気判断を据え置きました。

主要景気指標前年度比





個人消費



(やや良い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は全店ベース前年度を上回り、既存店ベースは前年度を下回る。百貨店売上高は前年度を上回る。

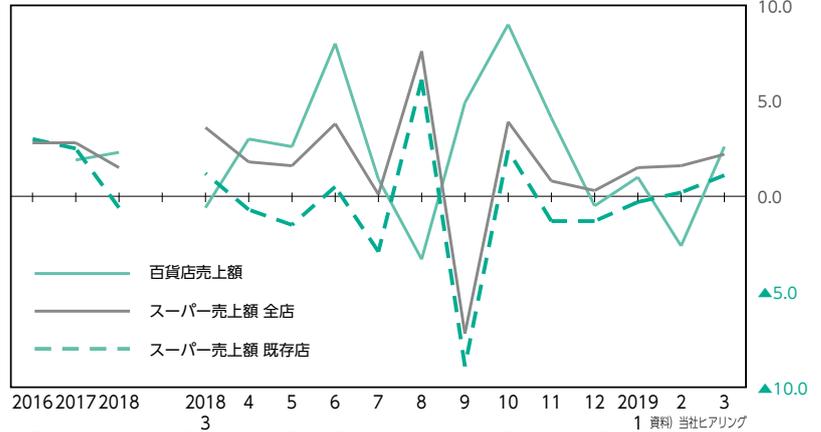
2018年度の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース（前年度比1.5%増）」は、新規出店効果などにより、「食料品（同1.9%増）」、家電を含む「家庭用品（同1.4%増）」の売上が伸び、前年度を上回りました。

【既存店ベース（同0.6%減）】は、食料品や衣料品の売上が伸び悩み、前年度を下回りました。品目別では、ウェイトの高い「食料品（同0.5%

減）」、「衣料品（同0.4%増）」は、台風襲来による営業時間短縮や、気候の影響などにより季節商材を中心に伸び悩み、前年度を下回りました。また、「家庭用品（同1.6%増）」は、夏場のエアコンなどの売れ行きが伸びず、前年度を下回りました。

百貨店売上高は、衣料品が伸び悩んだものの、雑貨などのインバウンド需要が増加し、前年度を上回りました（同2.3%増）。内訳をみると、ウェイトの高い「衣料品（同5.8%減）」は、前年度に比べ、夏場の気温が低く、冬場の気温が高く推移したことから、季節商材の需要が伸びず、「紳士服（同4.0%減）」、「婦人服（同7.1%減）」、「子供服（同6.7%減）」と前年度を下回りました。一方、「食料品（同5.7%増）」は、催事企画が好調だったことから前年度を上回りました。また、「雑貨（同12.5%増）」は、インバウンド需要の増加などにより前年度を上回りました。

前年度比、前年同月比



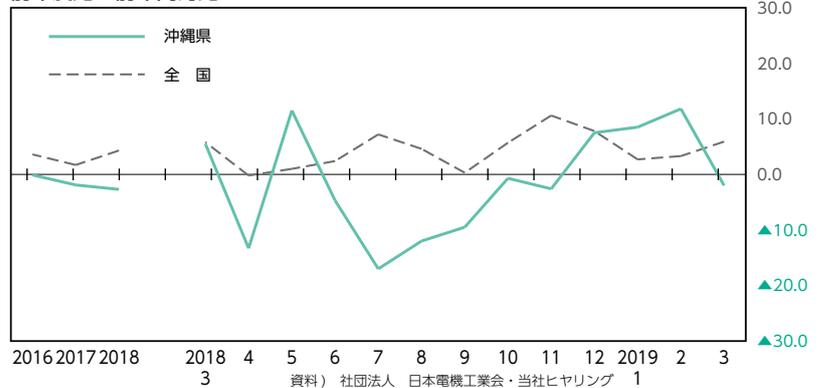
注) 百貨店売上高については、2014年9月よりサンプル数の変更に伴い、8月までの数値と連続しないため、数値の記載をせず、文中には便宜上、新調査手法にて前年度と比較している。

② 家電卸出荷額…エアコン、太陽光パネルの落ち込みなどにより、前年度を下回る。

家電卸出荷額は、エアコン、太陽光パネルなどの売れ行きが伸びず、前年度を下回りました（同2.7%減）。品目別では、「洗濯機（同9.2%増）」、「冷蔵庫（同5.0%増）」は、省エネなど高機能商品の買い替え需要が堅調に推移し、前年度を上回りました。一方で、「テレビ（同1.5%減）」は、高価格帯商品の売れ行きが伸びず、前年度を下回りました。

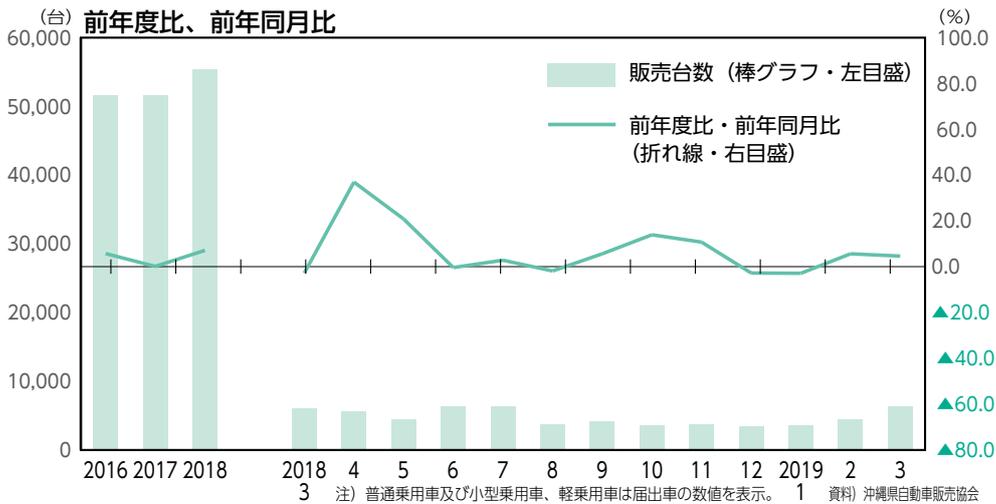
「エアコン（同8.9%減）」は、夏場の気温が前年度より低く推移したことから前年度を下回りました。また、「太陽光パネル（同54.3%減）」は、需要が減少し、前年度を下回りました。

前年度比、前年同月比



資料) 社団法人 日本電機工業会・当社ヒヤリング

③ 新車販売台数…レンタカーおよび自家用車需要の増加などから、前年度を上回る。

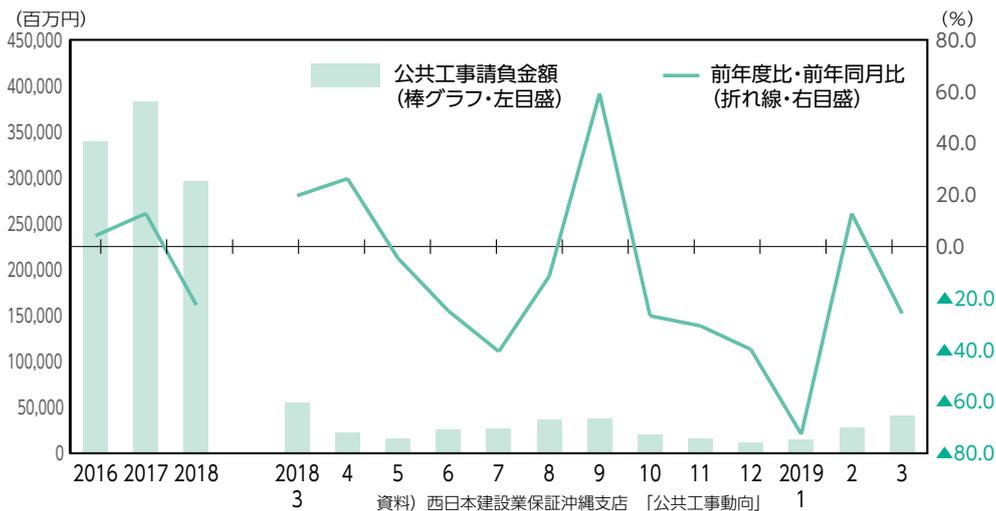


新車販売台数は、全体で55,311台（同7.1%増）となり、前年度を上回りました。車種別では、「小型乗用車（同15.6%増）」は、レンタカー需要の増加により、前年度を上回りました。また、「普通乗用車（同2.4%増）」、「軽乗用車（同2.5%増）」は、自家用車需要が好調に推移し、前年度を上回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

建設関連 (良い)

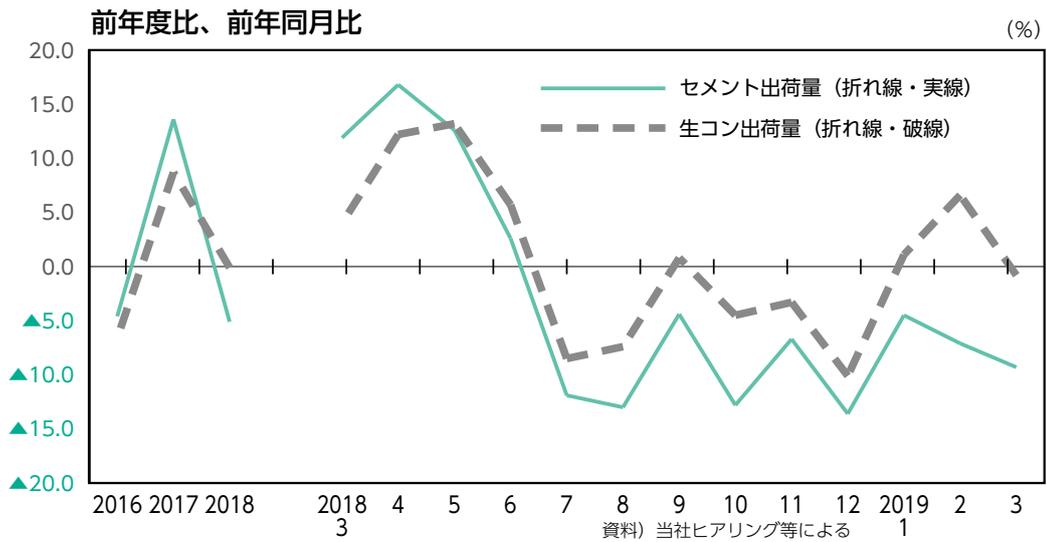
① 公共工事…公共工事請負金額は前年度を下回る。



2018年度の公共工事請負金額は、前年度比22.6%減の2,960億8,600万円となりました。発注者別で見ると、「国（同48.5%減）」や「沖縄県（同2.8%減）」は前年度を下回りました。一方で、それ以外の「独立行政法人等（同1.5%増）」や「市町村（同9.2%増）」、「その他の公共的団体（同12.1%増）」は上回りました。

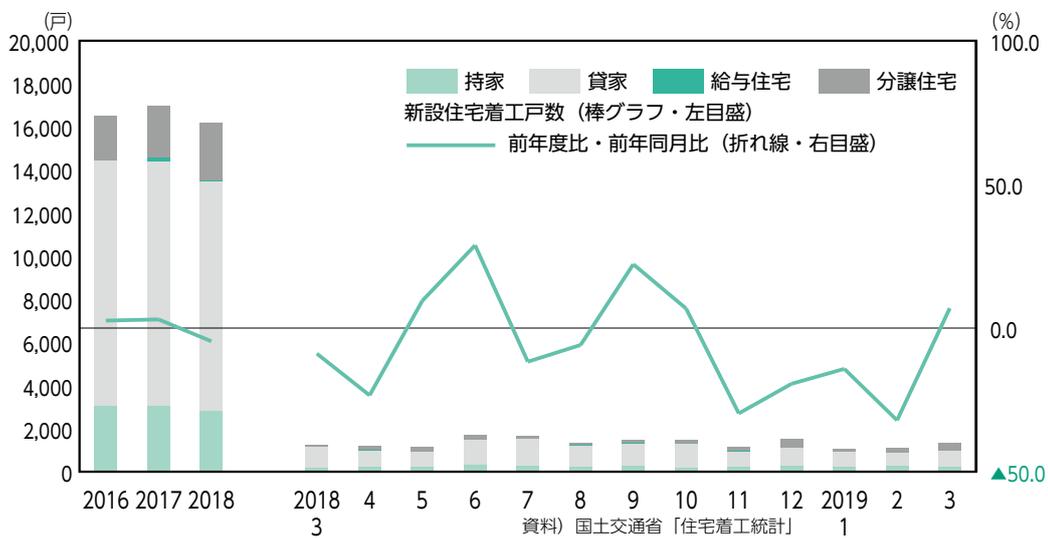


② 建設資材…生コン、セメントはともに前年同月を下回る。



建設資材関連では、**生コン**の出荷量は0.1%減と前年度をわずかに下回りました。内訳では、公共工事向け出荷が前年同月より9.6%下回り、民間工事向け出荷は5.0%上回りました。**セメント**出荷量は5.1%減と前年度を下回りました。

③ 新設住宅着工戸数…着工戸数は前年度を下回る。



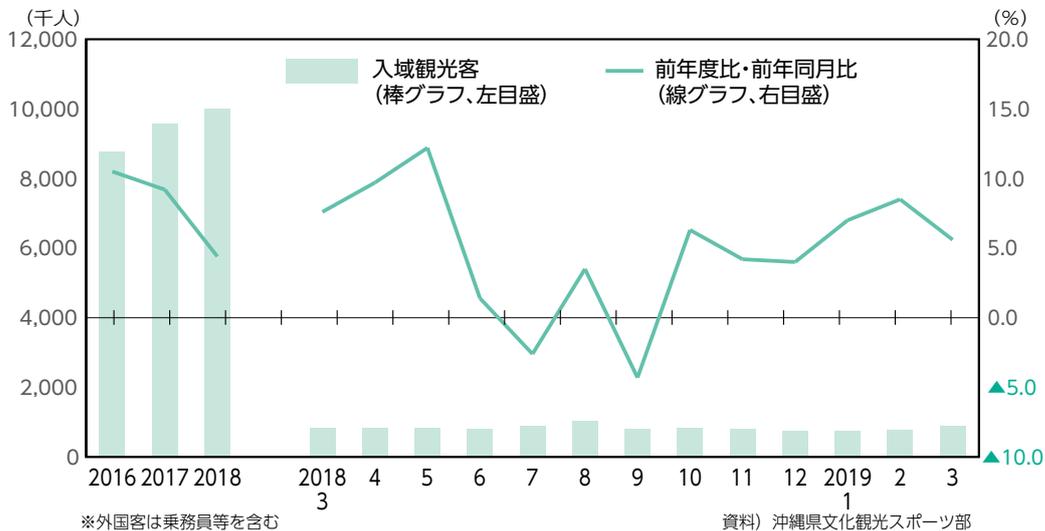
2018年度の新設住宅着工戸数は、全体で16,197戸となり4.6%減と前年度を下回りました。利用別戸数をみると、ウェイトの高い「貸家 (同6.1%減)」のほか、「持家 (同7.6%減)」や「給与住宅 (同67.9%減)」は前年度を下回りました。一方で、「分譲住宅 (同11.9%増)」は上回りました。

観光関連

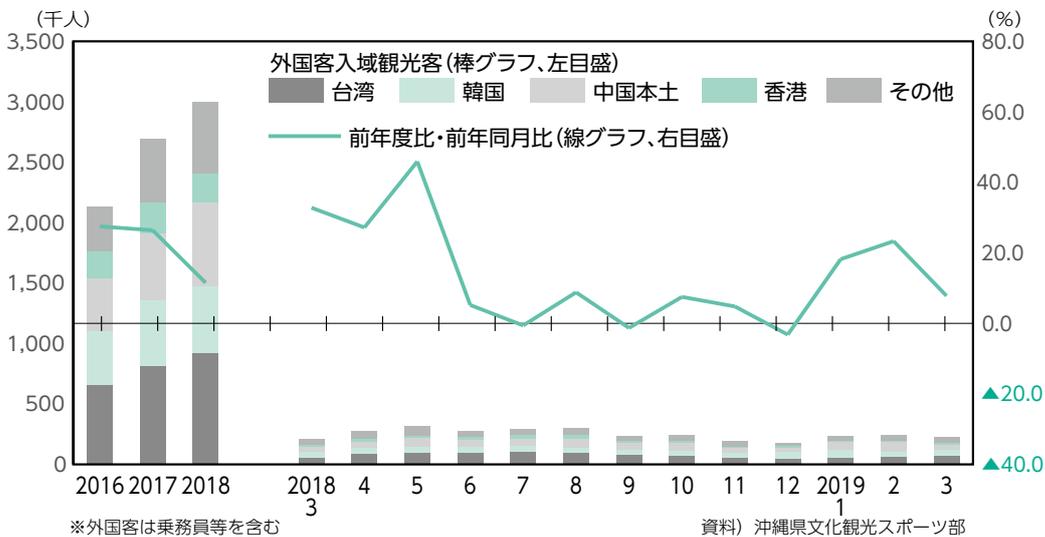


(やや良い)

① 入域観光客数(国内客・外国客の合計)…7年連続で前年度を上回り、2018年度は過去最高を更新。
は過去最高を更新。



外国客 入域観光客数…12年連続で前年度を上回り、2018年度は過去最高を更新。



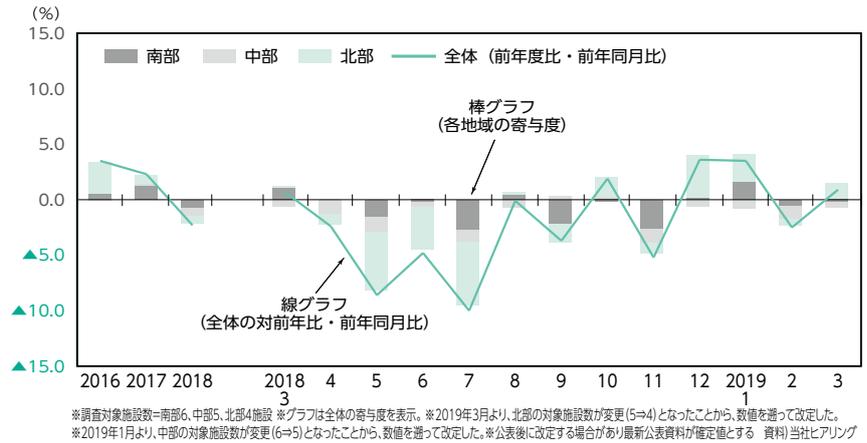
2018年度の入域観光客数は、999.9万人（前年度比4.4%増）となり、7年連続で前年度を上回り、過去最高を更新しました。内訳をみると国内客は699.8万人（同1.6%増）と、度重なる自然災害や麻しん発生の影響があったものの、景気回復基調が継続したことなどから好調に推移しました。おきなわ技能五輪・アビリンピックの開催や、新規就航（成田－石垣）等の航空路線拡充効果などにより前年度を上回りました。外国客は300.0万人（同11.5%増）と前年度を上回り、過去最高を更新しました。麻しん発生や台風の影響があったものの、前年度から引き続き訪日旅行人気が続いているほか、航空路線の拡充効果やクルーズ船の寄港回数増加などにより、空路・海路ともに増加し、前年度を上回りました。（「台湾（同12.9%増）」「韓国（同1.7%増）」「中国本土（同27.3%増）」「香港（同10.0%減）」）

※乗務員等を除く2018年度実績＝全体961.4万人（同4.0%増）、外国客261.6万人（同11.0%増）、国内客は変わらない。



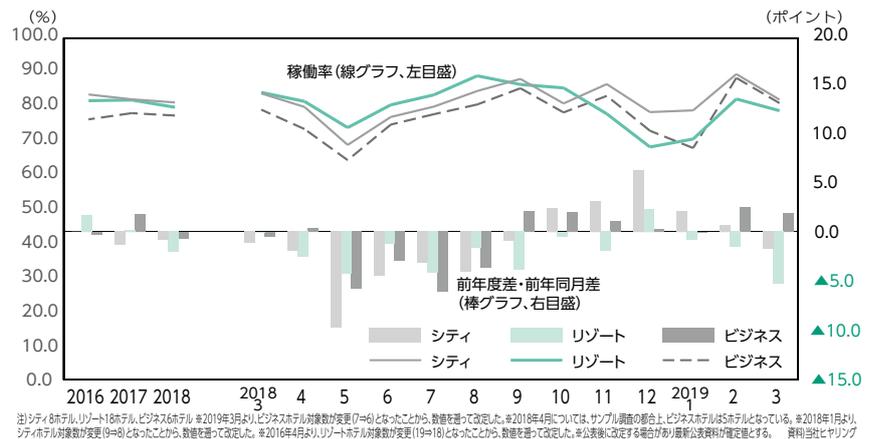
② 観光施設入場者数… 8年ぶりに前年度を下回る。

観光施設入場者数は、全体として前年度比2.3%減少し、8年ぶりに前年度を下回りました。地域別では、南部にある観光施設が同1.7%減（8年ぶり）、中部が同6.9%減（2年ぶり）、北部が同1.7%減（9年ぶり）と前年度を下回りました。



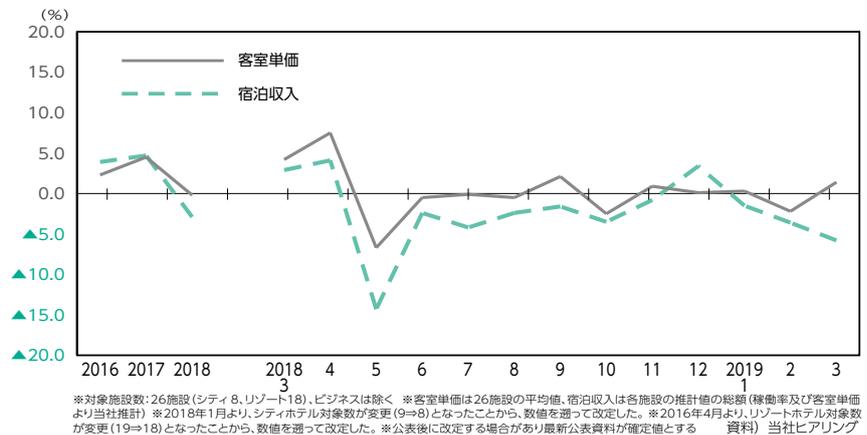
③ ホテル稼働率…シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年度を下回る。

2018年度の県内ホテル稼働率は、シティホテルが80.2%と前年度差0.9ポイント減少、リゾートホテルが78.8%と同2.1ポイント減少、ビジネスホテルが76.4%と同0.7ポイント減少しました。



④ ホテル客室単価・宿泊収入…客室単価は前年度を下回り、宿泊収入も下回る。

ホテル客室単価（シティ&リゾート）は前年度比0.2%減と前年度を下回り、宿泊収入も同2.9%減と前年度を下回りました。





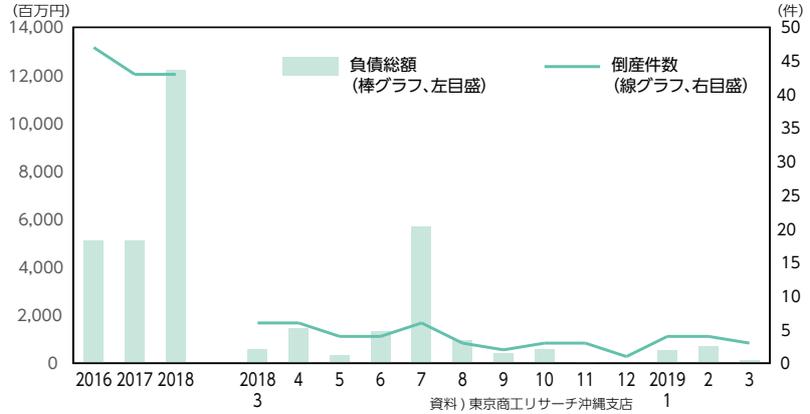
企業倒産



(やや良い)

① 企業倒産…件数は前年度と同数、負債総額は大幅に上回る。

2018年度の企業倒産件数は、43件（うち大型倒産は2件）となり、前年度と同数となりました。負債総額は122億3,200万円となり、前年度より139.0%増となりました。



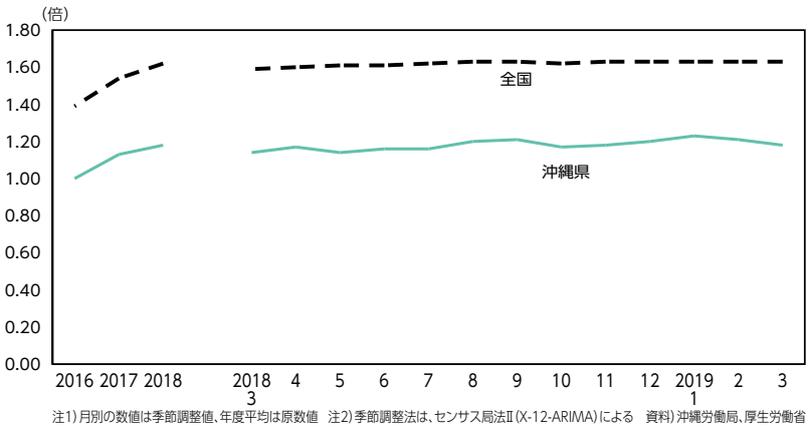
雇用関連



(良い)

① 有効求人倍率…沖縄、全国はともに前年度より上昇。

2018年度の雇用状況は、月間有効求人数（年度平均）は前年度比2.0%増の29,453人に対して、月間有効求職者数（同上）は前年度比2.2%減の24,892人となり、有効求人倍率（同上）は1.18倍となり前年度より0.05ポイント上昇しました。



② 完全失業率…沖縄、全国はともに前年度より低下。

2018年度の完全失業率（原数値）は、3.1%となり前年度より0.5ポイント低下しました。

